

東京農業大学 拓友会ニュース

第39号・2023年9月30日発行

発行所 **東京農業大学拓友会**

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

TEL.03-5477-2918 FAX.03-5477-2947

e-mail : takuyu@nodai.ac.jp

<https://www.nodai.ac.jp/academics/int/int/takuyu/>

拓友会総会について

第65期 総会のご案内

第65期拓友会総会については下記の通り対面での実施を予定しております。

ただし、今後予定が変更となる可能性があります。変更が生じた場合は、拓友会ホームページにてお知らせいたします (<https://www.nodai.ac.jp/academics/int/int/takuyu/>)。

総会

1. 日時：令和5年11月4日（土）午前11時～
2. 場所：国際センター2階 カンファレンスルーム2

お問い合わせ先

E-mail:katsu10@nodai.ac.jp (東京農業大学国際農業開発学科 中曽根 勝重)

Tel: 03-5477-2918 (東京農業大学国際食料情報学部 事務局)

会長挨拶

農大大好き！

拓殖28期（昭和61年度卒）

拓友会会長 狩野 平左衛門岳也

（学生時代は「狩野 岳也」でした。）

このたび拓友会会長を拝命しました、狩野 平左衛門岳也（かのう へいざえもんたかや）です。歴史と伝統そして世界に羽ばたく諸先輩方と同じ名門農業拓殖学科（国際農業開発学科）で4年間学ばせていただきました。とても有意義で充実した大学生活でした。私は昭和39年茨城県水戸市に生を受け昭和58年農業拓殖学科の門

をくぐらせていただきました。今までの経歴は追記しますが、入学当初は応援団に顔を出したりアジア・アフリカ研究会の新歓合宿に参加したりしました



が、5月にはわらぶきの家（吉川浩史先輩創設）に住み込みながら拓殖協議会にお世話になりまして、1年時の収穫祭では同期数人と伝統モヒカン刈りになり収穫祭を盛り上げました、特に都内宣伝パレードは圧巻、ふんどし姿でトラックの荷台に乗り皇居で昼食、銀座マダムの前で大根踊りを披露するなどとても爽快快感でした。3年時には拓殖協議会、統一本部委員長として拓殖ここにあり!の意気を見せ、私自身もミスター農大に選ばれるなど最高でした。4年時には第94回収穫祭実行本部委員長として農大全学生をまとめ上げる大役は何物にも代えられません。

卒業後は宮古島熱帯農場助手予定者として津川安正農場長予定者の監督のもと、厚木中央農場にて米安晃教授の門下生となりました。この厚木農場での修業期間が私の人生の始まりと言っていいでしょう。米安先生の指導はとても厳しく、当時を知る特に野菜部の練習生は大変でした。「君たちは農業の医者になりなさい、百姓になりなさい!農業は自然を相手にする、だから自分たちも自然と仲良くなること、自然に逆らわないこと、そのために何をするかを教えてあげるからついてきなさい!」これが最初の朝の朝礼でした。それからいろいろとありましたが、野菜の見方（観方）を教わることが出来ました。

農大の中もいろいろと再編があり私は13カ月の修業を終え国政に進み秘書を経験、その後植物園での研修生を経て青年海外協力隊に2度応募しましたが、健康上の理由で合格はかないませんでした。その

後は老人福祉施設の運営、専門学校を経て鍼灸あん摩マッサージ指圧師になり高齢者の健康づくりに、縁あって茨城県議会議員を2期、のちに国士舘大学院にて救命救急学を学



び、現在ストレッチでの健康治療を地域のためにしています。その他ボランティアとして戦没者遺骨収集を遺族3世として活動しています。今までに硫黄島、ペリリュー島、グアム島に計7回派遣されました。いろいろな仕事やボランティアをしているので何が本業で何の専門家なのか自分でもわからなくなる時があります。私の活動の基本は「ほっとけない!」「目の前の命を救う」です。座右の銘はもちろん「美しい花を見てその根っこを思う人は少ない」です。米安教授から「間引きした苗や病気の植物を見捨てないで元気に育てあげられるようになれば百姓といえる、農業の医者を目指せ!」と指導を受けました、その時のショックを受け、今まで23年間ダメなもの汚いものの要らないものは捨てればいいと思っていましたが、最後までしっかり見届けてやるのがとても重要で農業に関わるならばあたりまえにできる人にならなければならないと。初代学科長杉野忠夫先生は「人類を飢餓、貧困、無知、残虐、病気からの解放」と。まさに人類には農業、政治、教育、

医療と介護が重要なのです。『農学は実学だ』『ゴリラの如く逞しく』農大での4年間で私の人生58年(40年)を支えています。

先般新1年生に対し講演をさせていただきました。高校3年間はコロナ禍の中でどう過ごしてきたのか、友達づくりに思い出づくり、クラブ活動に恋愛にケンカは？リモートという中で自分をごまかしていたんじゃないかな？別な自分を作っていなかったかな？みんなのことがとても心配で残念でなりません。だからこそ4年間の大学生活を十二分に200%楽しんで欲しい。東京農業大学ここにあり！農大健児の意気をみよ！と自信をもって誇りをもって明るく楽しく過ごし、たくさんの人とつながり大いに夢を探してほしい！

拓友会の皆さま、いつまでも、どこにいても、何をしても我らが母校東京農業大学を、育ててくれた農業拓殖学科(国際農業開発学科)を忘れずに支えてください。

私も、あなたも農大が、拓友会があるから今がある。押忍

(経歴)

東京農業大学農業拓殖学科卒

衆議院議員三塚博秘書

社会福祉法人明岳会理事長

ケアハウスピソ天神施設長

日本鍼灸理療専門学校卒

梅安はり灸指圧院院長

茨城県議会議員

国士舘大学院救急システム研究科修士課程修了

自然体ストレッチ・いやどうも トレーナー

(役職)

保護司、民生委員、JA共済農家班長、地区公民館長、いばらき救命普及協会事務局、国体セーリングトレーナー、障害者スポーツ指導員他



ブラジル農大会慰霊碑建立50周年慰霊祭の開催

志和地 弘信

ブラジル東京農大会（東京農業大学校友会ブラジル支部、原島義弘会長）主催によるブラジル農大会慰霊碑建立50周年慰霊祭が2022年8月28日にサンパウロ市サウーデ区の農大会館で行われました。この度の慰霊祭は農大関係先亡者を祀る慰霊碑建立50周年を記念したものです。日本からは学校法人東京農大常務理事の志和地弘信、矢嶋俊介東京農大副学長が渡伯し、在伯会員ら約60名と共に先人の遺徳を偲びました。慰霊碑はグアルーリョス市のサンジュダス・タデウ墓地に建立され、建立50周年を機に、参拝に交通の便の良い同会館に移設されました。

式典では参列者が慰霊碑に線香をあげ、

学歌を斉唱しました。閉会後には懇親会が催され、参加者らは親交を深めました。同会による先亡者慰霊式はコロナ禍により3年ぶりの開催になりました。ブラジル各地の在伯会員は久しぶりの再会に喜んでいました。東京農業大学の学生たちのブラジルでの農業実習・留学事業がつつがなく実施されているのは在伯の卒業生の継続的な支援によっています。今後も東京農大の学生たちの留学・実習へのチャレンジに期待しています。

慰霊祭の前週には東京農大の協定校ブラジルアマゾニア農業大学とトメアスー移住地を訪問し、トメアスーの慰霊碑に献花するとともに卒業生ならびにご家族と懇親を深めました。



駄洒落と枚挙の精神

— 追悼・河合省三先生 —

足達 太郎

東京農業大学名誉教授で国際農業開発学科元教員の河合省三先生が2022年3月13日に逝去された。河合先生は68歳で退職されるまでの20年間、熱帯作物保護学研究室（保護研）で昆虫学を担当し、数多くの学生を指導された。わたしは先生の退職後に後任として赴任したものであり、直接おしえをうけたことはない。しかし退職後も頻繁に大学に顔をだされていた先生の聲咳に接する機会が多かった。そこで「教え子」である卒業生のみなさんとはまた別の視点から、先生にかんする思い出をしたためたい。

河合先生は1984年に本学科に助教授として着任された。前職は東京都農業試験場の主任研究員。カイガラムシ類の分類が専門で1980年にはいまなおカイガラムシ研究者必携の書となっている『日本原色カイガラムシ図鑑』を出版した。1982年には「カイガラムシの分類に関する研究」で日本応用動物昆虫学会賞を受賞している。40代なかばという研究者として油がのりきった時期に、なぜ先生は研究に集中できる環境をうちすてて、教育が主たる業務である私立大学に転職されたのだろうか。

試験場や研究所のような職場だと、周囲にいる人たちの顔ぶれは何年たってもそうかわらない。しかもみな節度をわきまえた研究者たちである。しかし大学の研究

室には、まだ発展途上の、ときには常識から逸脱した学生たちが毎年いれかわりたちかわりやってくる。そんな若者たちと接することが、先生はたまらなく好きだったという。

学生たちと接するのに、河合先生がもちいたコミュニケーションツールがふたつあった。ひとつは駄洒落である。会話のなかで反射的にとびだす先生の駄洒落に、学生たちはうまくりアクションをとることができず、かたまってしまうこともよくあった。そんなときは周囲にいる教員がフォローしなければならず、かなり厄介だった。どんな駄洒落だったかときかると、失礼ながらほとんど思いだせない。文字どおり「駄洒落」だったとしかいいようがない。だがいつでもどこでも相手をえらばない、ぶれない姿勢には、心のなかで敬服していた。

もうひとつのツールはビールのあき缶である。もともとは先生がおもしろいデザインだと思ったビールの缶をとっておいたのだが、旅行がえりの学生がご当地ビールなどを土産にもってくるようになった。そのうちに海外からのものもくわわるようになり、次第にコレクションがふえていった。先生は標本の状態にこだわりがあり、缶ビールは開栓しないでもちかえるようにという指令がでていた。あき缶だとつぶれて形がわるくなるというのがその理由で

ある。開栓前の缶ビールをうけとると、飲みくちとは反対側の底に小さな穴をあけて中身をだす。そうすれば標本の形がくずれないというのだ。

わたしが赴任して間もないころ、改築したばかりのご自宅にお邪魔したところ、部屋の欄間がちょうどビール缶のサイズに彫りこんであって、そこにずらりとコレクションがならんでいた。先生はご満悦だったが、ご家族はどう思っていたのだろうか。最終的にあつめた数は約2万缶におよんだ。このコレクションはのちに醸造科学科に寄贈された。その一部は現在、研究棟1階のホールに展示されている。そのほかに、コンビニおにぎりの包装紙の収集にも手をそめられたようだが、そのコレクションがどうなったのかは寡聞にして知らない。

ところで、保護研では以前から毎年卒業論文要旨集を作成しており、教員が卒業生にむけてはなむけの文章を執筆することになっている。ある年の要旨集に先生が書かれた記事のタイトルは「多様性と枚挙の精神」というものだった。とある著名な生物学者が、当時台頭してきた分子生物学をもちあげるいっぽうで、それまでの生物学は新種をみつけては記載し、整理するだけに終始してきたと批判し、「切手あつめと何ら変わらない」と断じていた。河合先生は記事のなかで、その学者の言を紹介するとともに、これに対する反論を展開された。著者の主張は生物のもつ多様性とそれぞれの個体の背景にある歴史や時間を軽視しすぎているという

のが、反論の骨子だった。

生物学では多様性のなかに共通性や法則性を追求すべきであり、それには「枚挙の精神」がかかせない。つまり、「切手あつめ」のようなことこそが、生物学のひとつの根幹だというのである。先生の収集癖をする人ならこれを読んでニヤリとするだろう。河合先生にとっては、カイガラムシもビール缶もおにぎりの包装紙も、多様性のあるものならとにかく何でも収集して、コレクションをながめることにこそ意義があったのだろう。

晩年には「窓際生物学者」を名のっておられた。体力がおとろえ、奥さまの介護などもあって、フィールドにでかけることがままならなくなった先生は、自宅の窓にとんできてとまっている昆虫を室内から写真撮影することが日課となった。「窓際」というのは、出世コースからはずれた会社員のことを揶揄する意味もある。もちろん河合先生のことだから、両方の意味をかけておられたのだろう。きつといまごろは、あちらの世界でも駄洒落を連発しながら、何かおもしろいものを収集されているにちがいない。

第63期 会計収支決算
(令和3年10月1日～令和4年9月30日)

一般会計

収入の部	予算	決算	差異
1. 会費	820,000	690,000	▲ 130,000
卒業生	820,000	690,000	▲ 130,000
既卒者	0	0	0
2. 事業	100,000	150,000	50,000
ニュース広告	100,000	150,000	50,000
行事等収入	0	0	0
3. 寄付金等雑収入	10,000	6	▲ 9,994
4. 前年度繰越	393,679	393,679	0
合 計	1,323,679	1,233,685	▲ 89,994

支出の部	予算	決算	差異
1. 事業支出	330,000	280,165	▲ 49,835
総会費	0	0	0
新入会員歓迎会費	0	0	0
名簿整備	0	0	0
ニュース発行	100,000	106,040	6,040
拓友会賞	50,000	44,125	▲ 5,875
在校生への補助	180,000	130,000	▲ 50,000
2. 管理費	270,000	51,381	▲ 218,619
会議費	40,000	0	▲ 40,000
印刷費	10,000	0	▲ 10,000
交通費	20,000	0	▲ 20,000
通信費	50,000	1,880	▲ 48,120
消耗品費	50,000	0	▲ 50,000
雑給費	50,000	1,500	▲ 48,500
雑費	50,000	48,001	▲ 1,999
3. 特別会計積立金	200,000	200,000	0
4. 予備費	523,679	0	▲ 523,679
5. 次年度繰越金		702,139	702,139
合 計	1,323,679	1,233,685	▲ 89,994

特別会計

収入の部	予算	決算	差異
1. 前年度繰越	3,025,034	3,025,034	0
2. 一般会計より繰入	200,000	200,000	0
3. 雑収入	50	13	37
合 計	3,225,084	3,225,047	37

支出の部	予算	決算	差異
1. 次年度繰越金	3,225,084	3,225,047	37
合 計	3,225,084	3,225,047	37

第64期 会計収支予算
(令和4年10月1日～令和5年9月30日)

一般会計

収入の部	第63期	第64期	差異
1. 会費	820,000	720,000	▲ 100,000
卒業生	820,000	720,000	▲ 100,000
既卒者	0	0	0
2. 事業	100,000	50,000	▲ 50,000
ニュース広告	100,000	50,000	▲ 50,000
行事等収入	0	0	0
3. 寄付金等雑収入	10,000	10,000	0
4. 前年度繰越	393,679	702,139	308,460
合 計	1,323,679	1,482,139	158,460

支出の部	第63期	第64期	差異
1. 事業支出	330,000	550,000	220,000
総会費	0	0	0
新入会員歓迎会費	0	200,000	200,000
ニュース発行	100,000	120,000	20,000
拓友会賞	50,000	50,000	0
在校生への補助	180,000	180,000	0
2. 管理費	270,000	285,000	15,000
会議費	40,000	60,000	20,000
印刷費	10,000	5,000	▲ 5,000
交通費	20,000	20,000	0
通信費	50,000	50,000	0
消耗品費	50,000	50,000	0
雑給費	50,000	50,000	0
雑費	50,000	50,000	0
3. 特別会計積立金	200,000	200,000	0
4. 予備費	523,679	447,139	▲ 76,540
合 計	1,323,679	1,482,139	158,460

特別会計

収入の部	第63期	第64期	差異
1. 前年度繰越	3,025,034	3,225,047	200,013
2. 一般会計より繰入	200,000	200,000	0
3. 雑収入	50	50	0
合 計	3,225,084	3,425,097	200,013

支出の部	第63期	第64期	差異
1. 次年度繰越金	3,225,084	3,425,097	200,013
合 計	3,225,084	3,425,097	200,013

受賞記録

日本熱帯農業学会 第133回講演会 学生優秀発表賞 受賞

西涼帆さんが、2023年3月13日（月）から14日（火）に明治大学農学部で開催された日本熱帯農業学会 第133回講演会で、学生優秀発表賞を受賞しました。

発表タイトル：メタボローム解析を用いたゴレンシ果実3品種における一次代謝物の熟度別及び品種間比較

発表者：西涼帆・大穂清隆・寺田順紀・真田篤史・松田大志・小塩海平

受賞者：西涼帆（東京農業大学 国際食料情報学部 国際農業開発学科）

※学年、所属は受賞当時

日本熱帯農業学会 第132回講演会 学生優秀発表賞 受賞

大学院農学研究科国際農業開発学専攻博士後期課程3年 LISWADIRATANAKUL SUMETEEさんが、2022年10月15日（土）から16日（日）に鹿児島大学で開催された日本熱帯農業学会第132回講演会で、学生優秀発表賞を受賞しました。

研究課題：Replacement of water yam (*Dioscorea alata* L.) indigenous root endophytes and rhizosphere bacterial communities by the inoculation of a synthetic community of dominant plant-growth-promoting bacteria

受賞者：LISWADIRATANAKUL SUMETEE（農学研究科国際農業開発学専攻博士後期課程3年）

※学年、所属は受賞当時